

骨髄バンクの現状

第49回厚生科学審議会 疾病対策部会
造血幹細胞移植委員会

2017年8月7日
公益財団法人 日本骨髄バンク

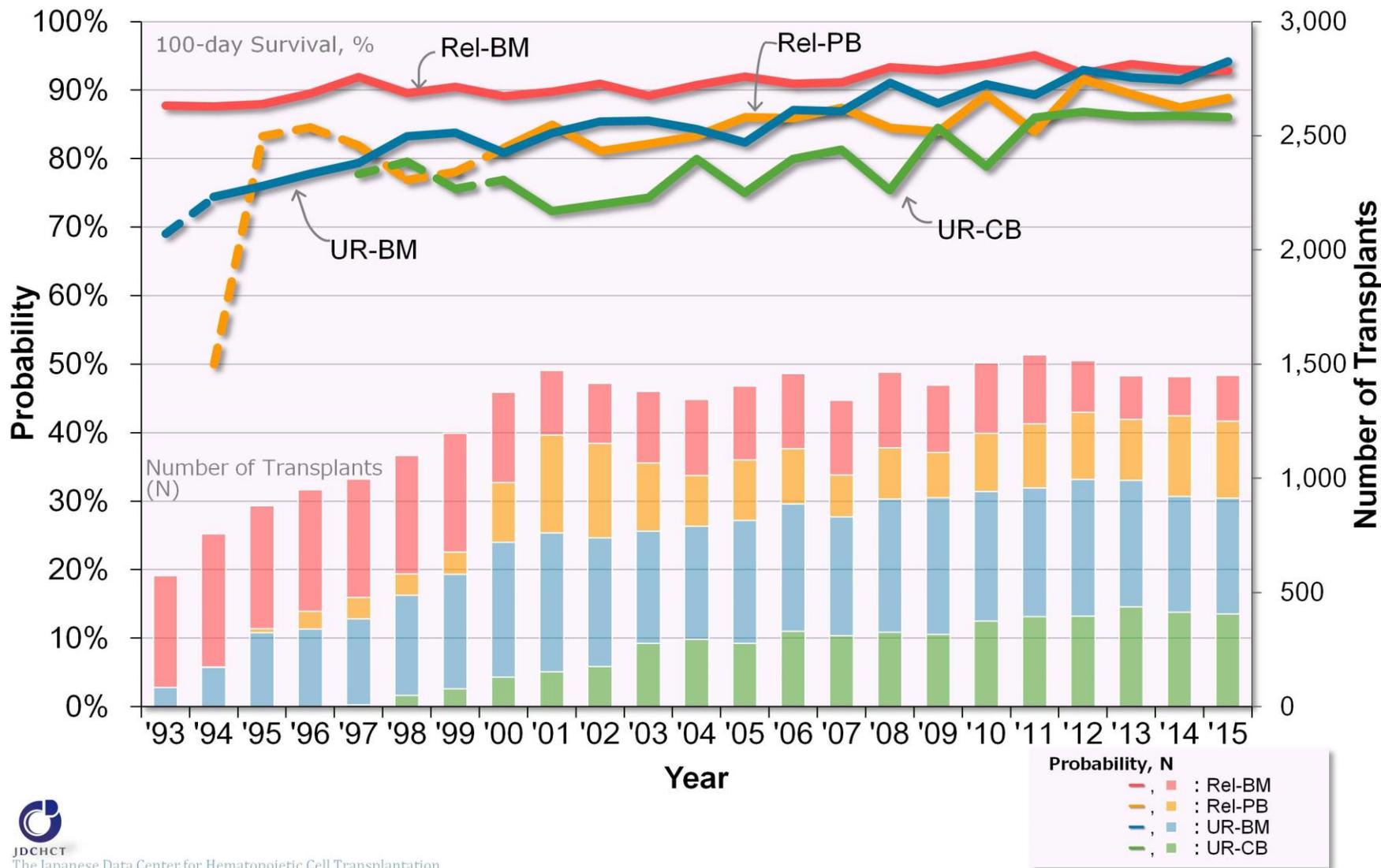
はじめに

1. 非血縁者間造血幹細胞移植を適切に推進する根拠法が出来たことを、日本骨髄バンクは大変嬉しく思っている。
2. 法律に定められた役割分担により、日本骨髄バンクの中核業務であるコーディネートに、より注力できるようになった。
3. 日本造血細胞移植データセンターによれば、近年、非血縁者間骨髄移植の100日、1年生存率は、HLA適合同胞からのそれらとほぼ肩を並べ、様々な移植方法の中でもゴールドスタンダードになりつつある。
4. しかしながら、中核業務であるコーディネートの期間短縮は未だ全く不十分である。その改善のため、骨髄バンクは日本造血細胞移植学会、支援機関（日本赤十字社）、厚生労働科学研究班等と共に作業を続けているが、本日は直近3年間の作業状況を報告する。

100-day Survival by Year Transplants, Donor, and Stem Cell Sources

Allogeneic

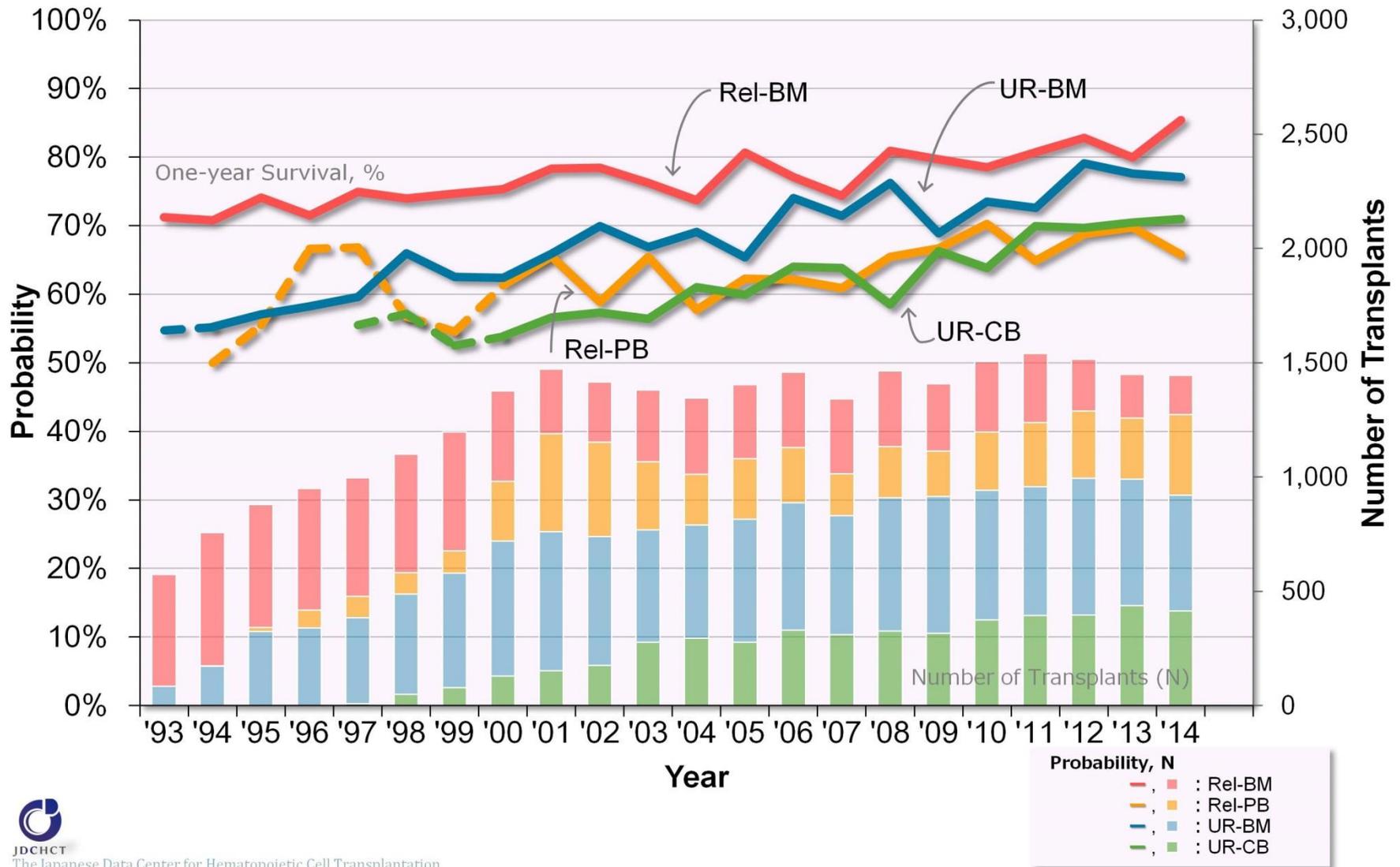
Age < 50



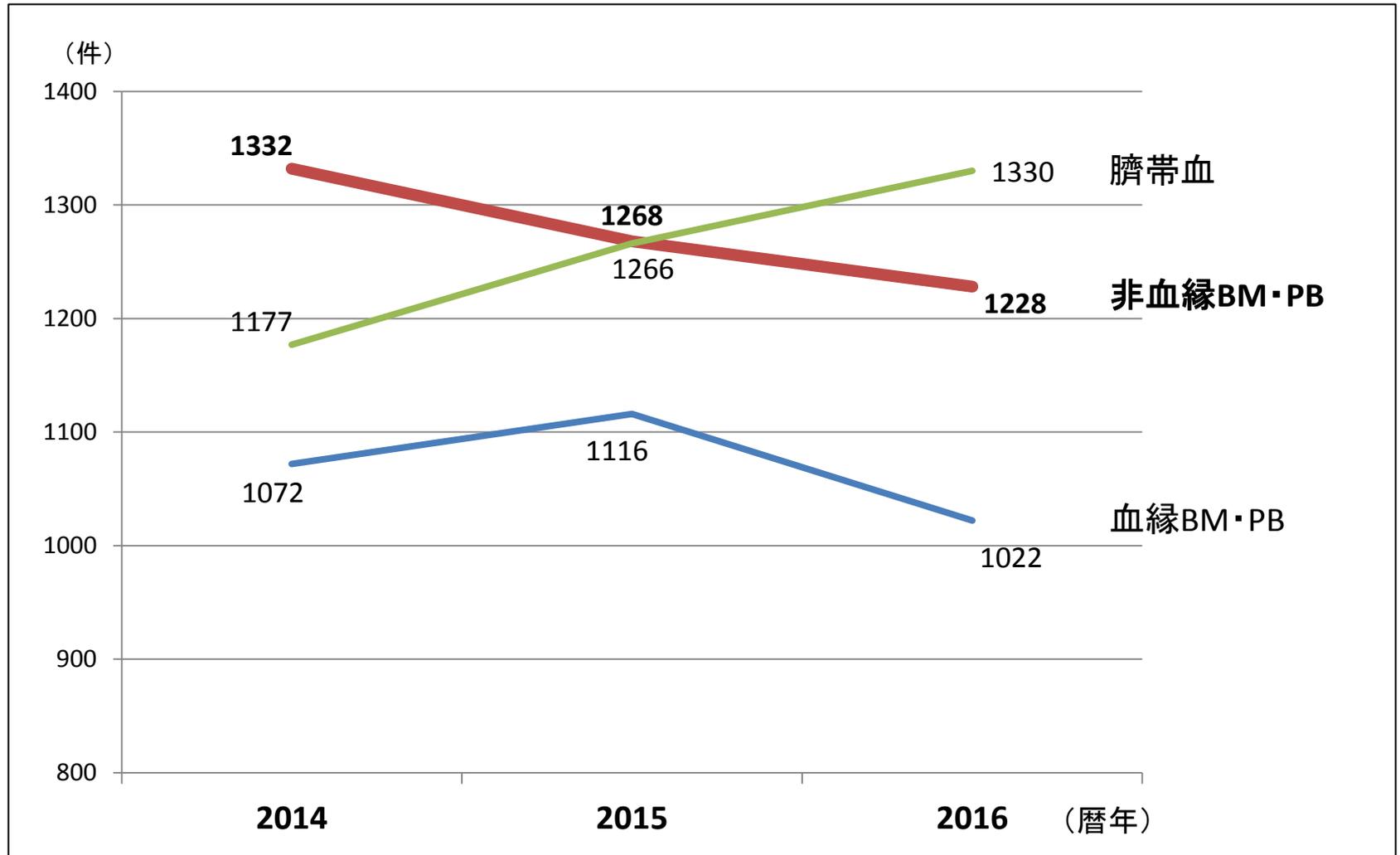
One-year Survival by Year Transplants, Donor, and Stem Cell Sources

Allogeneic

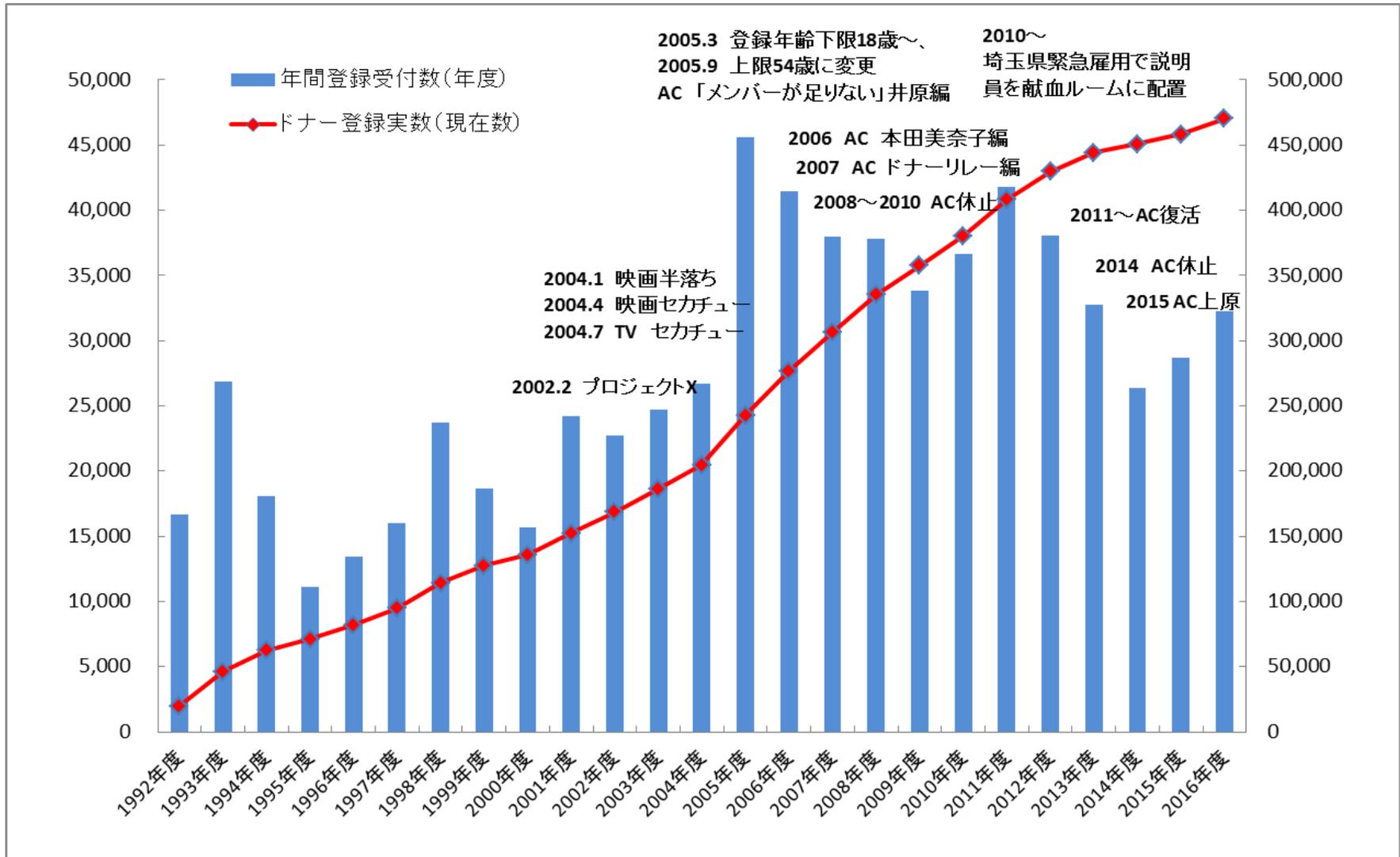
Age < 50



同種造血幹細胞移植の実績

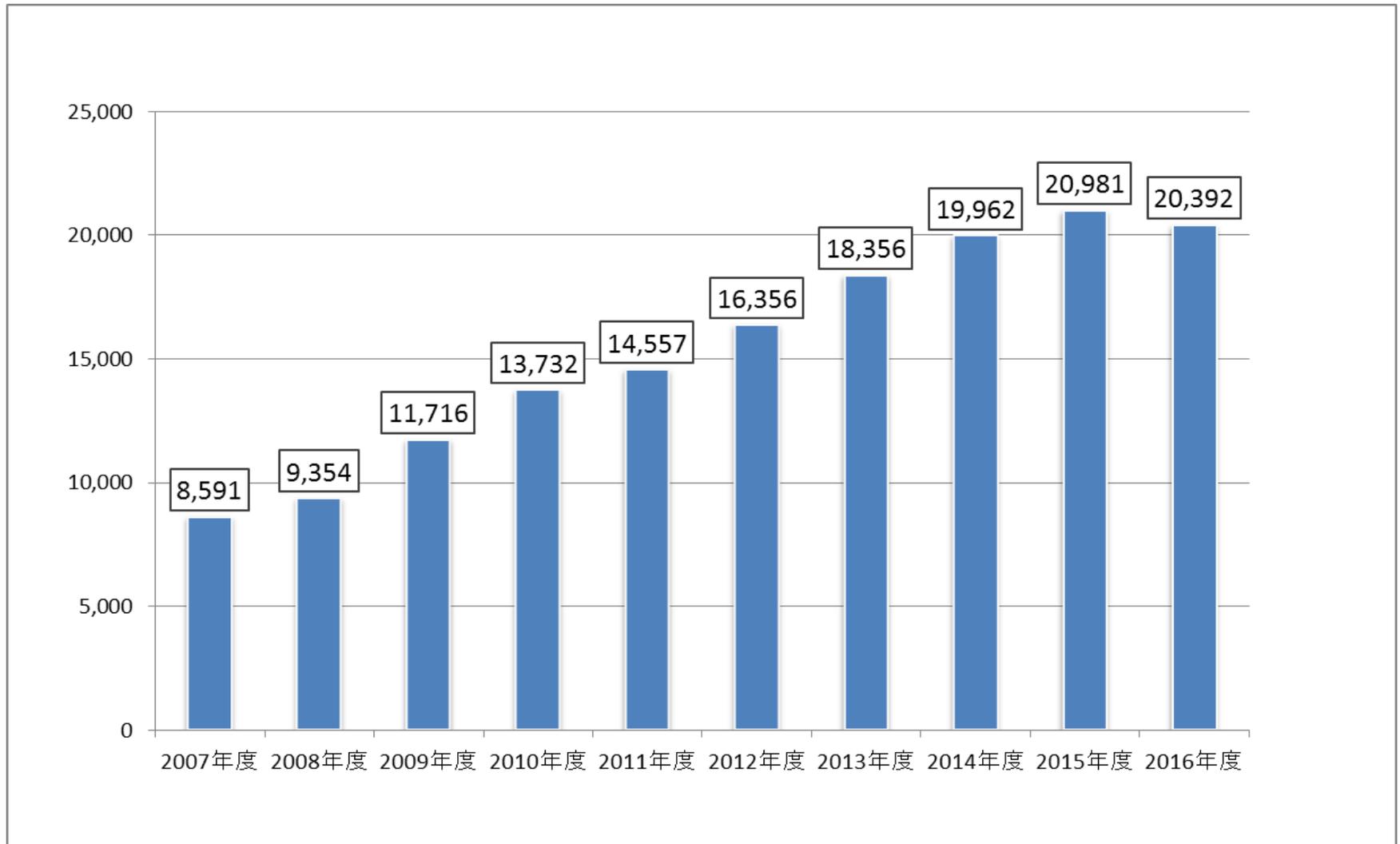


普及啓発 ① ドナー登録者数の推移

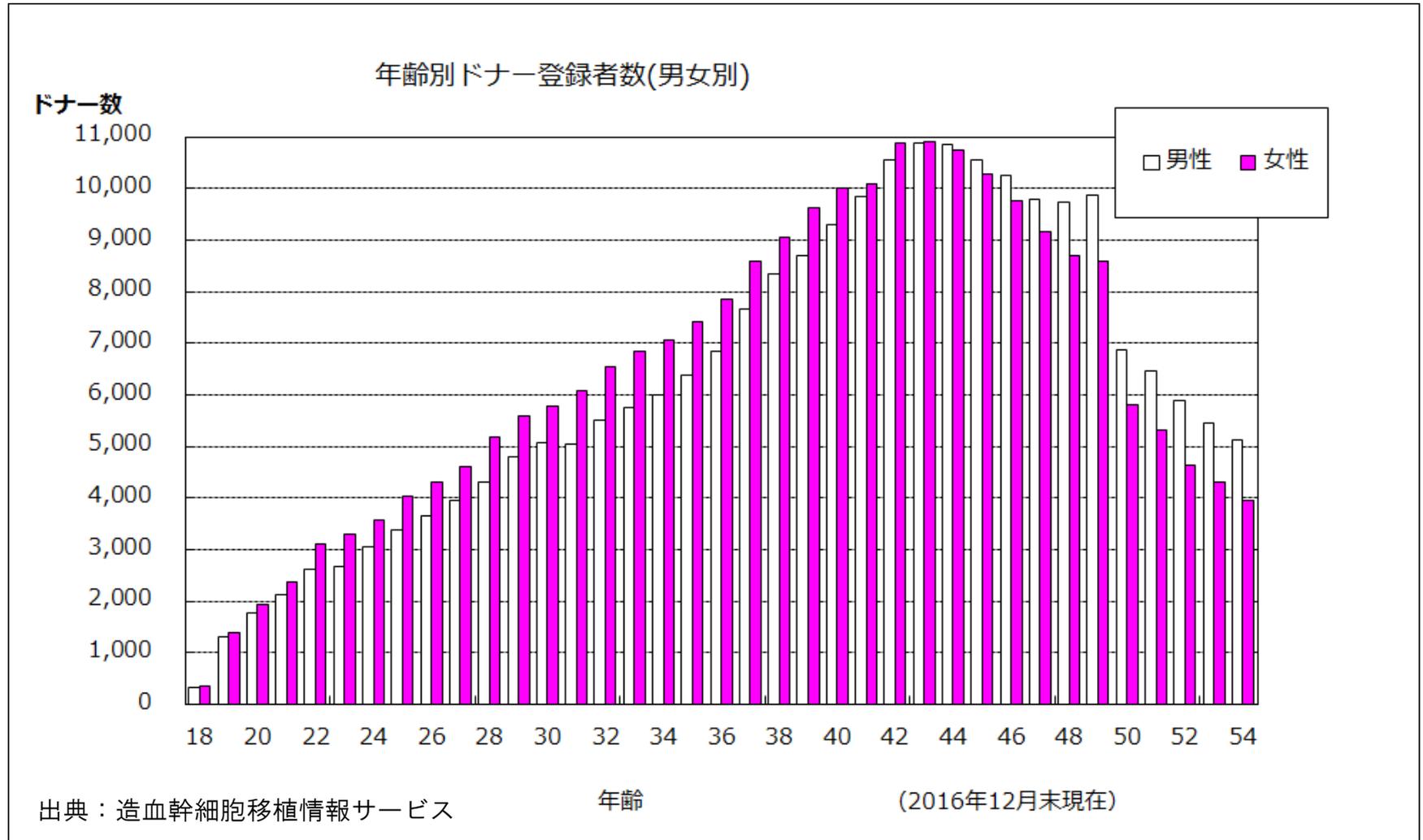


2017年3月末現在 (470,270名)

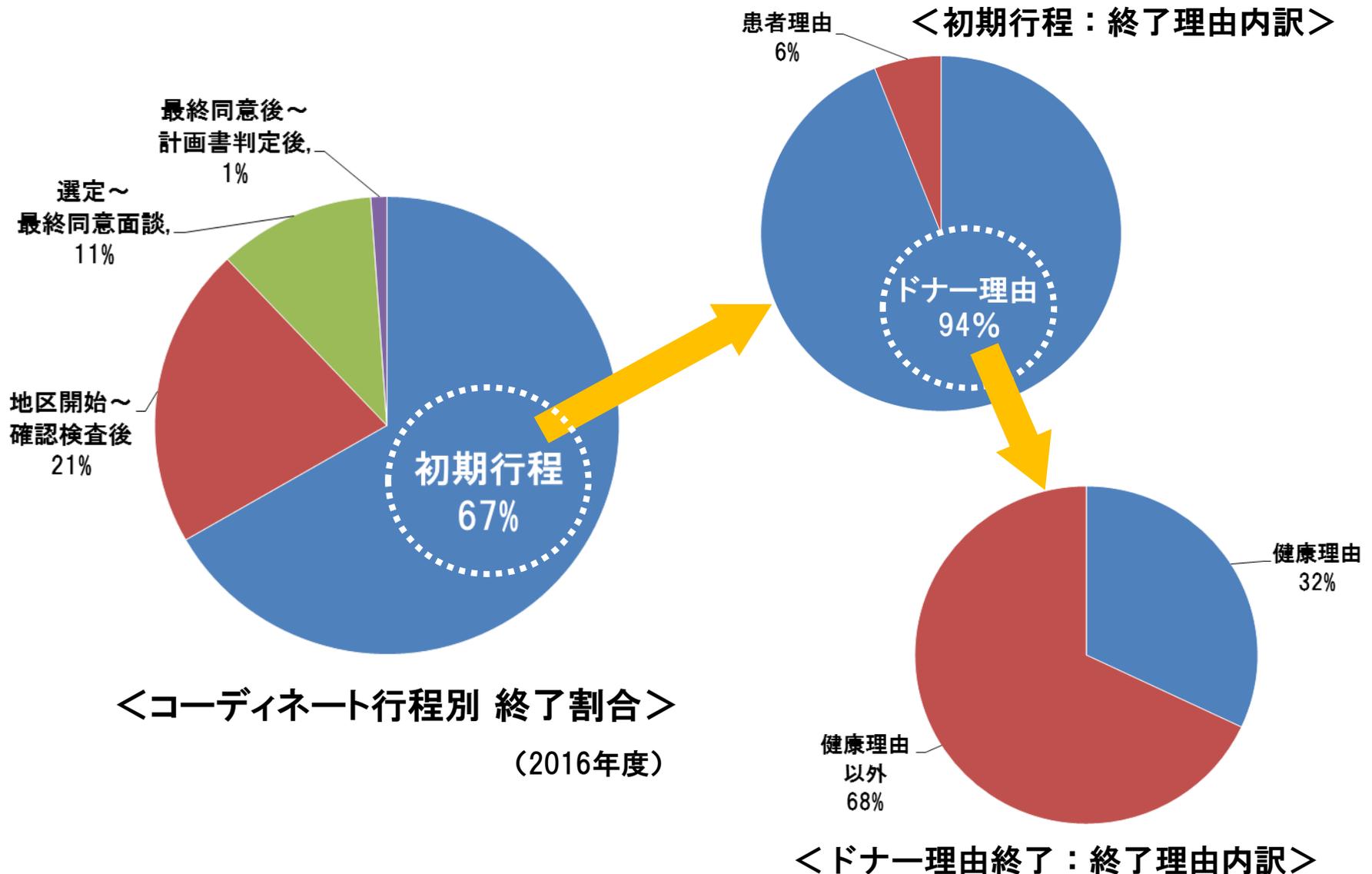
普及啓発 ② ドナー登録取消者数の推移



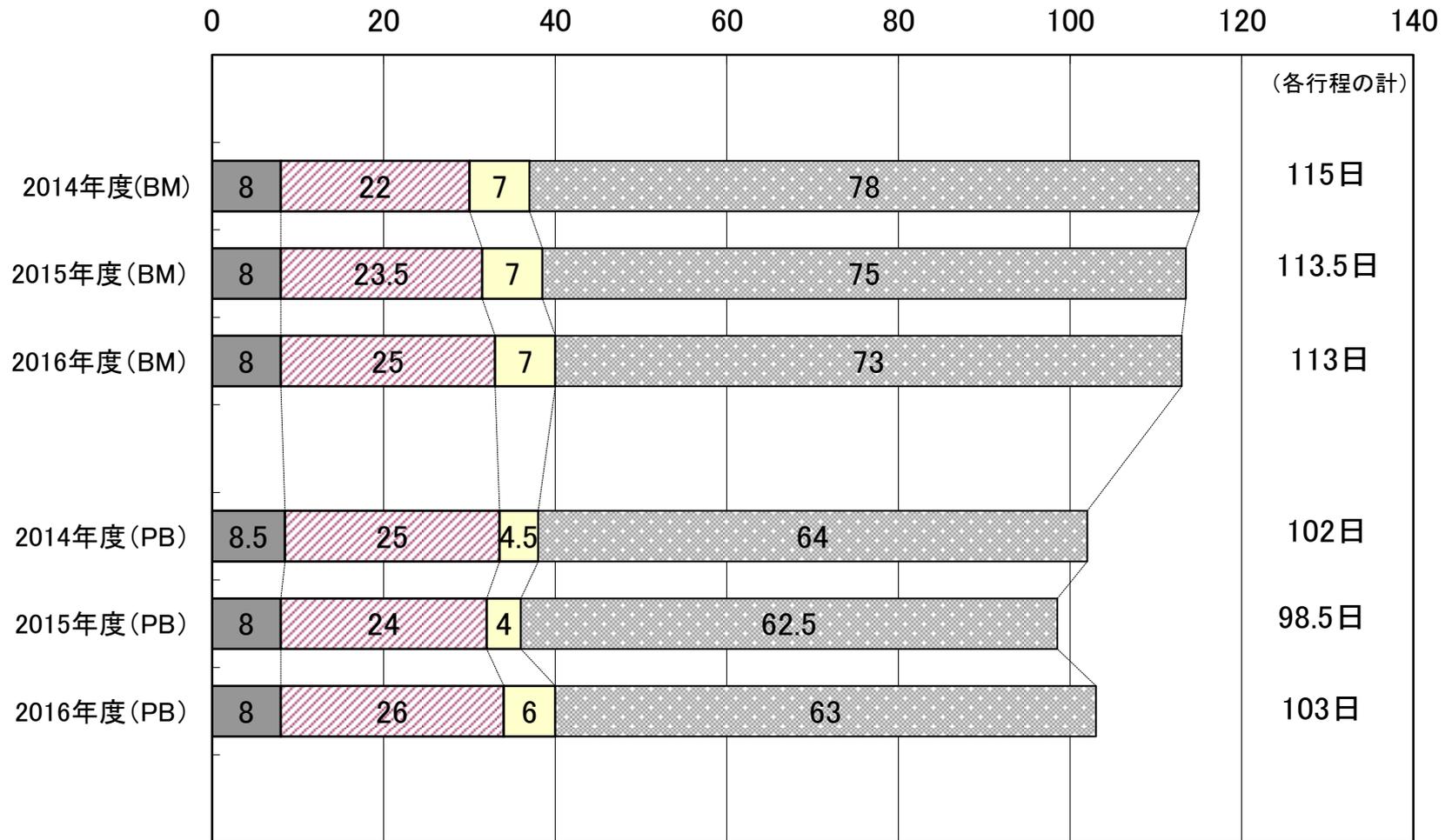
普及啓発 ③ 年齢別ドナー登録者数



連絡調整 ① コーディネートの終了について



連絡調整 ② コーディネート期間 行程別中央値



■初期(検索～開始シート受理) ■確認検査(開始シート受理～判定) □ドナー選定(判定～選定) ■採取(選定～採取)

骨髄バンク事業の課題と取組み ①

■課題

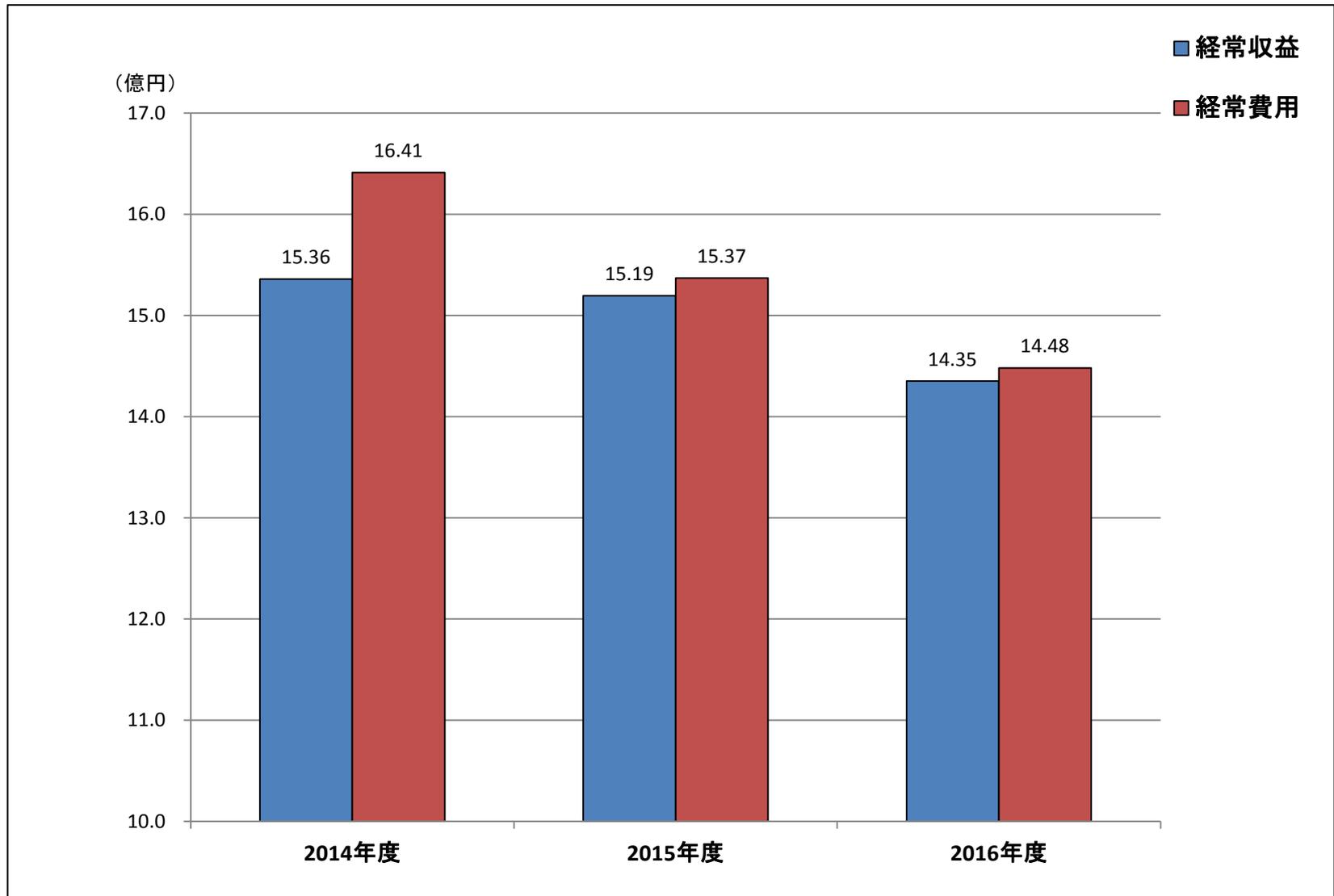
1. 若年ドナーのリクルート
2. ドナーリテンション（登録者の提供意思の維持）
 - ・コーディネートを進められる登録者を増やす
3. コーディネート期間の短縮
 - ・コーディネートを進められる登録者を早く探す
 - ・コーディネートの各行程を早く進める

骨髄バンク事業の課題と取組み ②

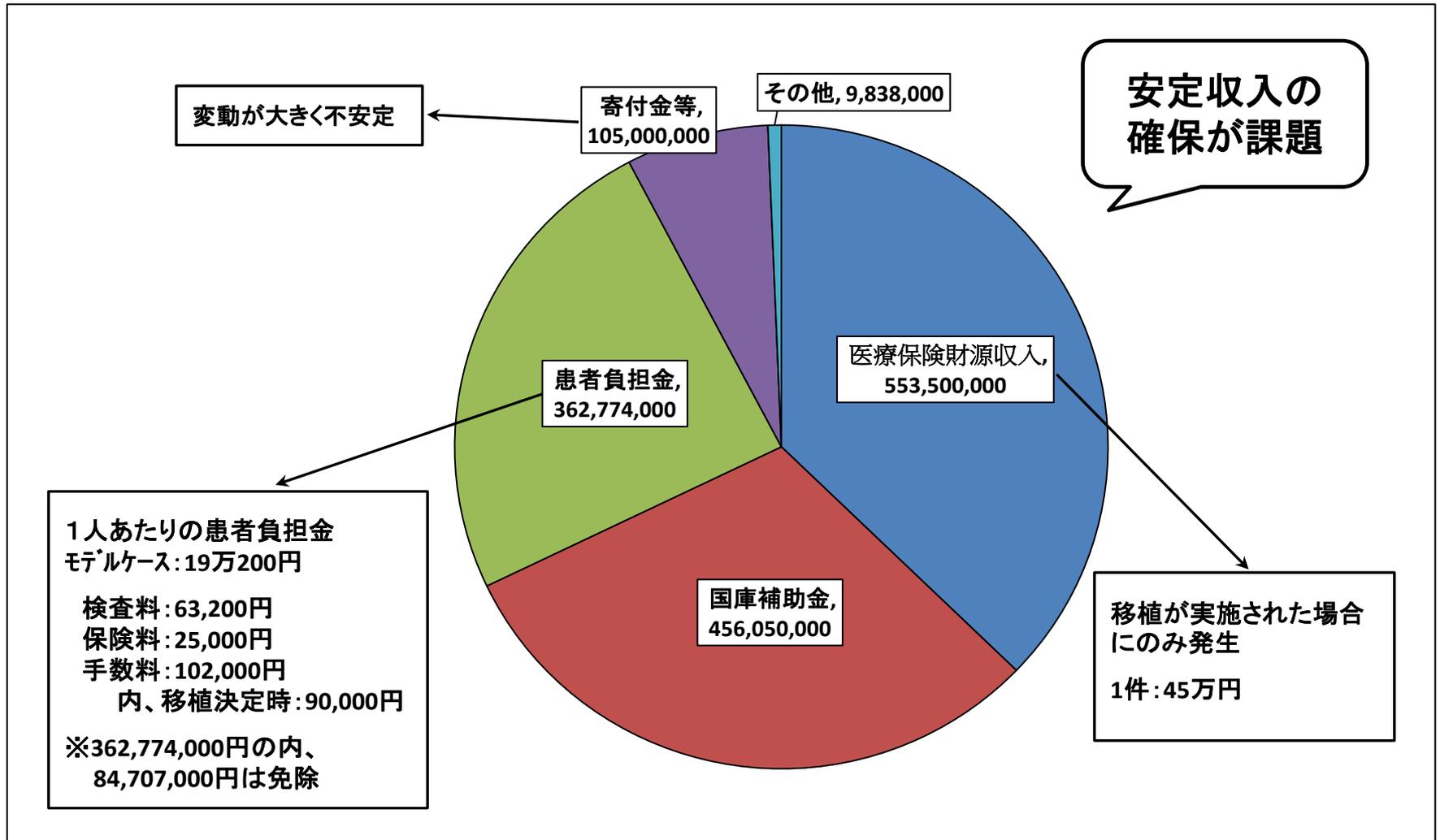
■取組み

1. 学校（高校、大学、専門学校 等）を中心としたドナー登録会の開催
2. 語りべ講演会の開催
3. 骨髄バンク事業が低迷している地域の活性化
 - ・連絡協議会の開催
4. 社会的支援制度の充実
 - ・ドナー休暇制度
 - ・ドナー給付制度
5. コーディネート手順の見直し
 - ・コーディネート開始人数の見直し
 - ・調整に対する考え方の整理
6. 造血幹細胞移植推進拠点病院との連携
 - ・採取枠の確保と施策推進での協力
7. 厚生労働科学研究 福田班との連携
 - 「骨髄バンクコーディネート期間の短縮とドナープールの質向上による造血幹細胞移植の最適な機会提供に関する研究」

財政状況 ① 収支の推移（実績）



財政状況 ② 収入の内訳 (2017年度予算)



将来に向けて

1. 法の根幹である“その人にとって最良の移植方法を提供する”ことを実現するため、非血縁ボランティアドナーからの移植のコーディネート期間短縮に更に注力する。
2. ドナー登録者、中でも若年層ドナーの拡充を図るため、普及啓発活動に更に注力する。
3. 学会、支援機関、研究班との連携を更に緊密にし、場合によっては業務の相互乗り入れも含めて、移植医療全体に課せられた課題をより速やかに実践する。
4. 適正、合理的な原資配分を当局へ要望してゆく。
5. 全国自治体へ、地域差のない支援を要望してゆく。